

色々

一〇、援助 村農會、婦人會、女青團等わけて小學校特に女先生の援助は多大なり。

一一、其他

保姆の數は上河内一二名 中河内九名 下河内七名

出席託兒はすべて農家なり。

一二、所感

1 質素且農村向の託兒所たらしめたること

2 平素周囲の刺戟なき農村にてはこの種の會合は教育上好影響ありしものと思考さる

## 大阪府豊能郡萱野

## 農繁期託兒所

藤原 淨信

日本幼稚園協會の編輯部より、私の農繁期託兒

所經營に就ての實際の様子を書けとのことでありますが、未だ浅い經驗しかもたない者が尊い誌上を汚すのも如何と思ひもしましたが、然し又この私の經驗から今後斯種事業を營れる方の幾分の御參考になり、お役にたつこともあればと思ひまして、貧しい經驗乍ら皆様の御研究の資料として捧げたいと思ひます。(然し私は今旅行中で記録を手元に持たぬ故くわしく意を得ないのを残念に思ふ。)

(概要)

私の村は大阪の郊外五里計り北、紅葉で有名な箕面の山と千里山の間にある約五百戸程の村で全部が恰ど純農でありますから、年二度の農繁期の多忙さは今更申迄もありません。私は本願寺の教用で年中恰ど旅行をしておりますため、門徒以外は村人達と殆ど親しく接する機會もなく、せめて農繁期の間なりと寺に居つて、困つてゐられる農

家の子達のお世話をしたらと思ひ立つたのが昨年の秋です。もとく春頃より村の婦女會の方でも、お話があつたのですが、五百の戸數が十ヶ字に分れて長い地形にある關係上、開けば各字に開かねばならず、村の方としては大した豫算もなし、行惱になつてゐたのを私個人として、近くの字だけを引受て開くことゝしたのであります。

何分私の方では郡内初めての新しい施設として、一般の理解もないので、六十戸と二十戸との二字より三十名の定員として託兒者を募集しました處、意外にも多く四十名近く申込者があり、毎日赤ちやんをまじへて三十六名平均集りました。それに力を得て今年は更に關係區を一區加へ、六十五名の託兒者を受付毎日五十名程づゝお世話をしました、何分保育上未経験の素人のみの仕事ですから十分なことは出来ませんが、赤ちやんをお預りしたら、お辨當を出したり、出来るだけの努

力はして見たつもりです。いつの間にか親子の様に觀しんでくれる子達のことを思ふと、すべての苦勞を忘れて、他人の知れない樂しさがあります。初めは理解しなかつた村人達も今では心から悦んでくれますし、村當局の方も力を入れて下さるので、村内にせめて、もう二三ヶ所ほしいものだと念じてあります。この間も南の方の寺でこの秋から、開き度と申してゐられましたから、實現すればうれしいことです。

(準備)

- (1) 保育係の保育智識養成
- (2) 經營方法の組織
- (3) 宣傳及募集
- (4) 設備

準備としまして以上四つのが必要であります、先づ第一保育の任に當る、人物を適當に選ばねばなりません。これが専門の智識のある保母が

ある場合は心配が入りませんが、素人の場合には、とにかく保姆の代用として仕事が出来るまでの養成をせねばなりません、それには一番近道は近くの幼稚園に四五ヶ月位、それが出来ねばせめて半月でも一月でも見習に行くことです。私の方では保育の任に當つてくれる愚妻が長男が幼稚園に行く頃に、送り迎へをしてその間に覺へたのを、もともととしてやつたのですからおぼつかない限りです、その上オルガン一臺なしにお遊戯をやるのですから、とても無理な骨折りがいります、この秋までには小さいものでも一臺ほしいと思つてゐますが、中々意にまかせません。

次に經營方法の組織ですが、之は經營主體が、個人、團體、村營等それらの主體の別に依つて違ひますが、私の方は個人經營ではあります、村の當局及有志者の理解を得る爲に皆様と相談して、左の如く決めました。

1	名稱	萱野農繁期託兒所
2	位置	大阪府豊能郡萱野村大字白島、常照寺内
3	目的	(イ)農繁期の能率増進 (ロ)母體及乳幼兒の保護 (ハ)學童の缺席防止 (ニ) 兒童を通じて農村文化の向上
4	期間	毎年六及十一月の二期
5	年令	生後六ヶ月の乳兒より學令期までの幼兒
6	定員	三十名(本年より五十名とす)
7	保育課目	遊戯・唱歌・手技・觀察・自由遊技・野外保育
8	保育時間	朝七時より夕五時乃至六時まで
9	料金	昨年は一切無料(本年より一般の希望に依り間食代一期三十錢及晝飯米白米一升と定む)
10	従事者	所長一、保育主任一、醫員一、理

事若干名、保姆係補助員昨年は二名本年は三名篤志奉仕者一名

以上の如き案を作りいよく、開設の準備に入りました、先づ宣傳と募集にかゝつたのです。先にも申した通り郡内初めての仕事と云ふので、託兒所云々と申しましても諒解がありませんから、印刷物に一通りの要項を書いて配つた位では駄目なので、村人達の會合の席で説明したり、戸別訪問をして直接母親達によく理解の出来るまで話をし、て巡りましたため、その功か豫想以上四十名近く申込者が出來ました、然し親は承知してくれましても肝心の子供が集つてくれねば、駄目ですから、氣分をつくるために繪入のポスターを書いたり、又旗行列等をして始める四五日前より一二時間づゝ寺に集めて遊せ親しみをつくりました。

その間に設備の用意をしたのですが、先づ本堂前の境内の一部を改造して子供の爲の遊園を造り

ました、大體日本式の庭園は樹木や岩石が多くても箱庭式に出來てゐて子供の爲の遊場として適しません、植木を移植し岩を取りのけて廣場を作り、ブランコ、シーソー臺、スベリ臺、砂場等通りの遊道具が出來上りました。然しこの全部の設備で十圓内外で出來たのです、(現在の砂場は本年改造したもので砂場だけで十圓以上も要りました)ブランコの高さは餘り高くない方が危くなくてよろしい、繩の長さが六尺もあれば十分です、スベリ臺は私の方では本堂のお縁から這る様に造りました之が一番安全です、砂場は大邊子供が面白く遊ぶものですから、本年は完全に造り變へたのです、外の土と交らない様にすることゝ砂は土けのない少し粗らいものでよろしい、雨の時の用意にトタンで屋根を造りました、それから砂場の近くに手や足の洗場も造りました、之は是非必要です、その他玩具は、自分の子供の有り合せのも

のや、村の處女會の方達に少々作つてもらつたり  
 しましたが、それよりか、蒲鉾板を澤山集めて、  
 積木や砂場にも用ひてゐますがこれが一番よろし  
 い。本堂の内外は萬國旗と花飾りで、寺の寂しい  
 氣分を明るくする爲め苦心をしました、その花飾は  
 百貨店等の包紙の古いのを色紙の代用にして作り  
 ましたが店に依る紙の色が違いますから、美しく  
 出来上りました、その他、辨當箱、三十個 湯呑  
 三十個、バケツ、机、手技用品等を取揃へて準備  
 が調ひました。

(第一回目)

扱て、いよ／＼開設となつたのが、十一月五日  
 でした、託兒時間は朝七時より夕五時まで十時間  
 と決めましたが、所長さんから小使さんの仕事ま  
 でやらねばならぬ私は、毎朝四時に起床して、本  
 堂のお勤をなし、お掃除をすませると、早い子供  
 は七時前から先生お早う、と元氣よく集つて來ま

す、朝寒の時などは焚火をして温らせませす、私の  
 方では實際困られるお宅のお見さんより第一に預  
 る者から、生れて半年餘りの赤ちやんを二人預  
 りしました、尙保育方針は乳兒には母乳を與へ、  
 幼兒は出來るだけ、野外保育を中心として自然の  
 まゝ育てようとする考より、午前一回、午後に  
 一回お宮の森や、藥師堂のお庭に遊に出かけま  
 す、その度毎に赤ちやんや、小さな兒は乳母車に  
 入れて、押したり、泣き出せばお抱こしたりして  
 村中を歩き廻るので、中々骨折りです、夕方にな  
 つてお日様が西に入る頃になると、やれ／＼と思  
 ひます、初め四五日は夜になると私達は綿の如く  
 疲れて生體もなく眠るのでした、でも四時の目覺  
 しが鳴りますと、新しい元氣を出して飛起るので  
 す、然しもうその時近所のお百姓はお仕事にかゝ  
 つてゐるのです。あゝ、こうした都會の人々の夢  
 にも知らぬ努力で、私達の命の親であるお米は出

來上るのです。しばらくの苦勞位忘れねばなりませぬ。

兒童の中に家を出る時、たらしもの（間食のもの）を貰つてくる兒もありますから、色々注意して止めさせました。託兒所の方から出す二度の間食は主にビスケットを五ヶ乃至七ヶ位づゝ與へました、その外親達より子供達に頒てくれと云つてお芋を頂きましたので一日おきに一回づゝ出しました。が之は非常に手數がかゝつて感心しません、お菓子で一回約一錢と見積れば大丈夫です、品に依つては七厘位のものもあります、（但し私の方は原價位の値で頒けて頂いたから特に安かつたのでせう）お辨當は毎日出來ませんが、特に多忙期の間だけ出すことにしてゐます、農繁期の託兒所の兒童は家庭の程度が不同の爲め、お辨當箱や御馳走に不同が出來て幼い者の魂に寂しい僻んだ心持を起させない様と思ひ、辨當箱も、兒童數だけ用

意しました（一個二十六錢湯呑付アルミニウム製）粗末なものでも皆で一緒に頂くことにしたのです。元氣に充分の運動をして頂くものですから「おいしい、おいしい」申して頂いて呉れます、お晝の時間が來て佛様の前に銀色に光る、お辨當箱が並ぶと、皆のニコ／＼とうれしそうな顔つたらありません。家へ歸つて「お母さん今日はお寺でお辨當頂いたよ、お寺の御馳走はおいしいよ」と親達に聞せつゝ今までは夕飯もズツト多く頂くそうです。實際、み佛様の前で仲良のお友達と一緒に食事をするには、幼き者の心にも、謂知れぬ尊い心の和みがわくのでした。

午後は、手技に摺紙をしたり、時にはクレオンで思ひのまゝに自由畫を試しても見ました、子供達には手工のものを家に土産に持つて歸へるのも、樂しみの一つでした。オルガンがないまゝに手拍子で教へるお遊戯や唱歌も、すぐ覺えてゆく

のです、託兒所に來ない、學校の兒まで村中に託兒所で歌ふも唱歌が流行する様になりました。然し午後の學校の放課後、小學校の生徒が來ていたづらをして遊んで呉れるのは恰ど困りました。

學校の方からも注意して貰つたのですがそれも二三日だけで又來ます、ひとりづつに私の持前の大きな聲が出るのでした。

ある一日、大朝、大毎兩新聞の記者が訪問せられ、その翌日の新聞に、大きな活字の記事と自由遊をしてゐる實情の寫真とが兩新聞とも出ました、その頃から始め理解しなかつた村人達も、私の仕事の上に何分理解をもつてくれる様になりました、又仕事の方も段々落付いて來て順序も調つて來ました、毎日の日課の大體を記しますと、朝七時より八時半までの間の集合（之は通にこちらから出かけて行くのです、それでないとどんなにわけのある兒も、家の人に送られて來ると、別れぎ

はに愛着心が起るばかりでなく、その日一日時々家が戀しくなるので困るのです。九時まで自由遊九時に朝禮。朝の歌。點檢。遊戯。野外遊。間食。自由遊。晝食。自由遊。野外遊。間食。手技。自由遊。退所の歌。退所（六時）と云ふ順で然しその時々都合で多少變更するのです。

こうして二十間の後、農家の多忙期も終り、收獲期後の村の公休日となりましたので、十一月二十四日の閉所式を舉げることになりました、この間一日平均三十六名延人員七百二十名の託兒者があり、その内一人の病人も出ず無事に終りました、然して内に親は託兒致度くても兒の方でどうしても來ないのが二三ありました色々方法も考へましたが見込がなく失無を得なかつたのがあります。それは平生可愛餘りに、氣儘に育てゝあるとか、近所の兒とも親しませてない爲に、そうしたことになるらしいのです。

閉所式には、お母様達にも出席して頂き式後、期間中に習ひ覺の、お遊戯をお母様や來賓の方に見て頂きましたところ、お母様達は泣いて喜んで下さるし、來賓の方の一人小學校の一年生受持の先生等、お上手に申されたのですが「私達が一年受持つ間にさえこんなになつて、なつかして訓練することが出来ない」と等と、賞めて下さるので私達の苦勞が幾分でも報られたことをみ佛に感謝するのでした。バヨ／＼お別れのち唱歌の時は私の愚妻など遂に泣いて了つてゐるのです、たとひ短い間でも親子の様に親しんだのも私もいつしか胸が一つばいになつてくるのでした。

この第一期間の經費は、設備費から、米代、間食代、保育係補助員達への禮金、閉所式費その他一切で百四十圓餘り、一人平均十九錢強、之は晝食を出したので金が多く要りました、然し保育料は一切頂かず、この經費も自分で初めだけ支出す

る決心でしたが、村や赤十字社、その他方々より補助金を下されたので非常に助かりました。

### (第二回目)

前回の成績に力を得て本年の夏の農繁期に於ても開設すべく計畫を建てました。昨年一番困つたのは、保育係りの適當な人物を得られないことでしたから、先づ人物を養成すべく、本願寺が主催で第二回農繁託兒所講習會が大阪の津村別院で催されたのを幸に、愚妻と村の娘さんの一人を講習會に出席させました、尙愚妻の方は春より近くの幼稚園に長女を伴つて見習かた／＼通つてゐました、(第一回講習會の時は、京都でありました爲、私だけ出席したので)、その他本年女學校を卒へた私の妹と、他にもう一人村の娘さんを頼んで、四人の保姆代用者をこしらへました、皆、素人で今年もやはり、一番この保育係に困りました。理想を云へば、若くて、美しく、快活で、理智



的で、氣がるに働いて、落付があつて、無邪氣な感じのよい人で、而もその上お金の要らぬ人と云ふ條件だから、めつたにそんなのは得られるもんでない。然しそれ程でなくとも、氣がるに無邪氣に働いて、仕事に理解を持つ人さへあればよいがそれが中々ない。昨年等どうしても見込がなく、

本人にもお氣の毒だから中途で斷つたのが一人あります。然し昨年の時小學校の先生の奥様で奉仕的に働いて下された方があり、この方は大邊よかつたのですが、今年も信者の方で相當の年の婦人が奉仕的に働いて下されたが、この方は、非常に親切な方ではあるが然しそれがかへつて、親切過ぎるので子供が、親しむと云ふより、甘へてしまふので困りました、やはり若い方がよろしい。然しこの方はお辨當の方の仕事を手傳つて頂き非常に助りました。何分今年は託兒申込數が、一區、部落を加へる爲に、六十五名も申込者があ

り、前回のまゝでは少し無理な爲に、遊園を擴張したり、砂場、便所等の改造をして設備を改め、辨當箱、湯吞等も新に調へました、今年は物價が下落した爲、アルミニウム丸形の辨當箱小が十四錢、大で十九錢、湯吞が四錢で求められました。

扱ていよく始めたのが、六月五日。恰度その頃は吳市の方に教用で出張中でありましたが、朝日新聞社より優良託兒所として表彰されて、慈愛旗の傳達式が大府廳に於てあるから、歸れとの電報に接し、五日の朝大阪驛に着き早速登廳して、知事代理としての學務部長より、慈愛旗と助成金とを授與されました。全國二千有餘の託兒所中僅か一回の貧しき奉仕で百ヶ所程の中に入れて表彰されたことは、實に光榮の極でした。大阪では二ヶ所だけ、今一ヶ所は大阪で最も經驗多い貴志村でありました。慈愛旗は帆布製で質素な中に

質實剛健を表した、大旗です、託兒所に歸ると、朝から集つて私の歸りを待つてゐる兒童に迎へられ、この旗を中心に、よろこびの歌をうたつて、み佛の前に第二回託兒所の開所式を擧げました。遇然にも開所式の當日、表彰されたことは何となく意義のあることに思はれてうれしいことでした。

扱て、今年は昨年とは二十人程も多いので、中々の骨折りです。初め二三日は頭がボーンツとして終ひそうでした、それに第一困つたのは氣候の關係です。昨秋は、野外中心に過しましたが、今年は暑さの爲に野外どころか、屋外の遊も日光が強くて、出来ない有様に、早速 TENT を張り張り日影をつくり遊せましたが、梅雨期ですから、時々雨が降りますと、室内より仕方がありませんが、本堂が狭い上に室内用の玩具が不足なので困つて了ひました。その上氣候の變化で病人が次々と出

來ます、しかも流行性の感冒の一種で、すぐうつり急に四十度前後の發熱をするので、非常に心配しましたが、幸大した悪性のものでもなく、四五人にて止り、心配した程もなく安心しました。ところが又或日私が所用あつて役場まで行つた留守中、晝飯の用意の間に、兒童の一人が互に戯れて、腕の骨を碎じき、怪我をしたのです、早速専門醫の手當を受けましたので大した事もなく治りましたが、他人の大事な子ども達のことゝて、愚妻等青くなつて心配してゐました。又親達に正しい衛生思想がなく、保健上種々氣附く點もありましたから、こちらで出来るだけは、いつもの場合と自分の兒として時折臨機の手當をしました。

引き續く雨の日に樂器一つ持たぬ託兒所の悲哀は、子供の氣分を愛護する私達にどんなに、はがゆかつたでせう、その時、大阪のある銀行に勤める村の若い娘さんが、同銀行内のある方に頼んで

立派な蓄音器を一臺貰つて来て下さいました、早速、童謡や童話等の面白いレコードを求めて来て、淋しがつてゐる子供を喜ばせてやりました、その日から子供達には快活なよいお友達が増したのです。然し田舎の子供にはやはり一番うれしいのは、お辨當の時間です、然し五十人分のお辨當をつくるには、朝八時頃より十時半頃まで二人が

くりで一生懸命です、このお辨當は今年も妹が一切引受けてくれましたので子供達は、おいしい御馳走が頂けるので幸でした。或る一日朝日社會事業團の濱田光雄氏が訪ねて下さつた時恰度お晝の時間でしたから、兒童と同じものを共にあがつて頂きました、子供は知らぬおむさんがゐられても何の變りもなく無邪氣に、おいしいそうに頂くのでした。その翌日濱田さんより兒童へなつかしいお手紙を頂きました、その中に、お辨當の前の時間に大きな兒が小さな兒の手を洗ふのを手傳つてゐ

たことを見たと、ほめてゐて下された、何日しか子供の心にそうした美しい心が宿つて来てゐるのか、と我が子を賞められたうれしさに涙ぐむのでした。實際、初めの間は他の村から来てゐるものとは一緒に遊ばなかつたり、時々喧嘩をしたりすることもありましたが、いつしか皆言よしになつてゐるのでした。

今年も、愛國婦人會の方より援助して下さい、支部長の柴田知事夫人一行は六月二十四日吾が託兒所を態々訪問されました、夫人は兒童にとりて實にやさしい、よい小母様で、親しくお手づから子供達に一々お土産の晝本や、お菓子を頒けて下さいました、子供の喜は大したものですよ。お歸りの時に記念の撮影をさせて頂き村の子供達は知事夫人に同列でよい光榮に浴しました。村人達もこうした寒村に知事夫人の來られた様なことは初めてのことなので、心から喜んでくれました、とに

かく農村のありのまゝの現情をこうした方達に見て頂いておくこともよいことだと思ひます。その時の様子は愛國婦人會大阪支部より發行してゐる母姉講座の七月號にその時一緒に來られた、星野不二子様が、農繁期託兒所の印象と題して委しく書いておられます。

こうした中に、目のまわる様な多忙期も過ぎ、又村の公休日が來ました、六月二十六日、二十二日目で第二回目の閉所式を擧げたのです。この間延人員約一千百人、一日平均五十人、經費通計金一百五十餘圓、一日一人平均約十四錢。この費用も七分通りは諸方面の理解ある御援助で補はれてゐます。

(母の會)

閉所式の後、その他時折母の會を催して、保育上の御相談をすることにしてゐますが、今年は見童愛護の思想を向上さす目的で、朝日新聞社の辻

村又男先生に特に御苦勞を願つて、兒童愛護の御講演をして頂きました。兒童愛護の問題は近頃一般に考へられて來ましたが、農村に於ては、都會に比して、思想の上にも施設の上にも未だ殆ど問題にされてゐない有様です、然し私は農村に於てこそ、農村にふさはしい、兒童愛護の文化的施設が是非ほしいと思ふのです。然し現在都會にある、小學校の下の方に延長の様な幼稚園は望みません、理想的家庭生活の一部としての兒童の爲の樂園、そうしたものがほしいのです。農村の兒童は、大自然のふところに淨き大氣を呼吸して生長しながら、その指奪者を得ぬため、暗から闇に、野生のまゝ過ごしてしまふのです。彼等の心に人間としての尊さと、生くる明を知らせたなら、どんなに偉大な魂が現れてくるかも知れぬ。私はこの農繁期の託兒所もたゞ短期のその場限りの、親達の御氣嫌取りの仕事として終らせず、幼きも

のを通じて、農村文化の基礎を築くべき理想のもとに、尊き仕事として奉仕したい信念をもつてゐます。

尙、私の方ではこの理想のもとに農繁期間のみでなく毎月一回づゝ兒童の集會をして、子供のための楽しい一日をつくつてゐます。母の會を出来るだけ多くしたく考へてゐるのであります。

(自治の精神に基いて)

農村文化の建設に就ては、幸近時、爲政者等も農村問題に就て眞面目に考へてくれる様になりましたから、農村の文化の上にも一道の光明を見出したわけですが、然し諸々の社會問題は自治的精神に立脚してゐなくては實質上生命のないものです。外部より客觀的に觀て見積つた農村産業合理化や農村衛生思想の普及等大きな聲の割に實際の功果は難しい。實際の問題は農村それ自身の自治的自覺より生れた仕事でなくては農村自らを救ふ

力とならない。託兒所等形式の上より云へば最も簡単な設備で出来る容易な仕事の様ではあるが、他よりの宣傳や人真似では駄目で、やつたところが何の功もありません、自らも農民としての自治の精神より、即ち大なる意味に於ける母性愛の發露より、愛の實行としての奉仕でなくてはなりません。私は佛教の僧であり親鸞の末弟でありますから、宗教的信念の上より、報恩の實行として奉仕させて頂いてあります、農夫と共と法歌を詠ひながら、田植をされし祖聖の徳を偲びつゝ可愛子供達の手をとるのであります。旅行中の爲に充分様子の書けなかつたが、我が國の農村にも健全な保育施設が一日も早く出来ることを念じつゝ、筆止めます。昭和五、八、九夜

(岡山縣笠岡町五松園精舎にて稿)